

グラフィックに裏点を利用する、その手順

※エーデル Ver.9.06 で製作

裏点を打つ方法は

- ① EdelPaper で回転させ補点にする方法
- ② EdelBook で裏面から図をなぞる方法

の2通りがあります。

以下では①の方法で作成しました。

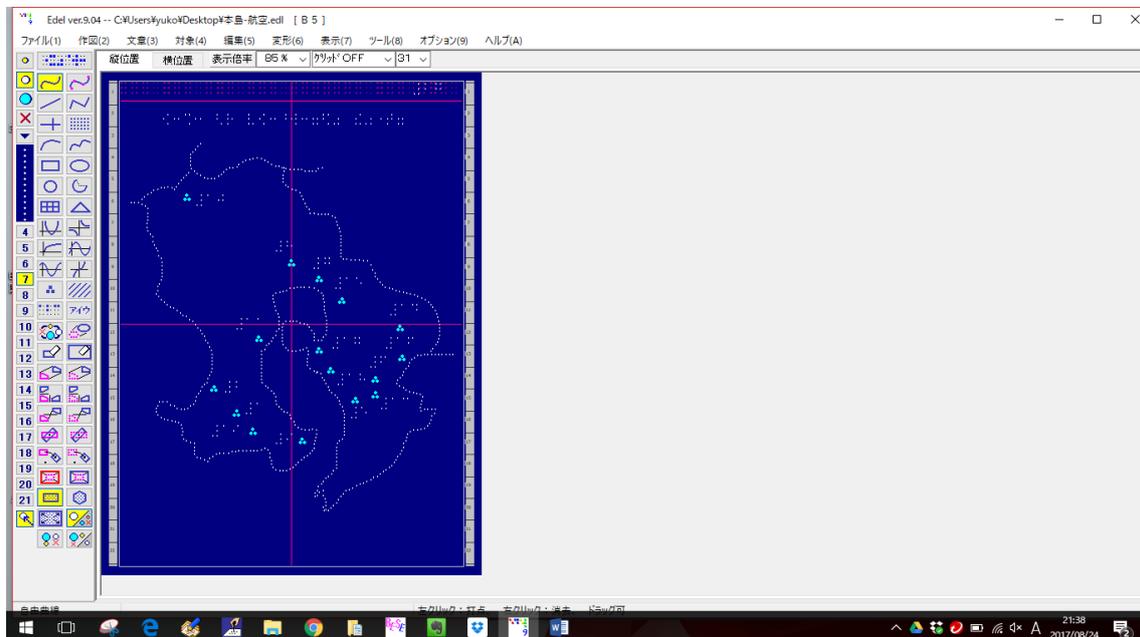
①の方が、正確に、そして簡単に裏点を作成することができます。

また、①の方法も2通りあります。

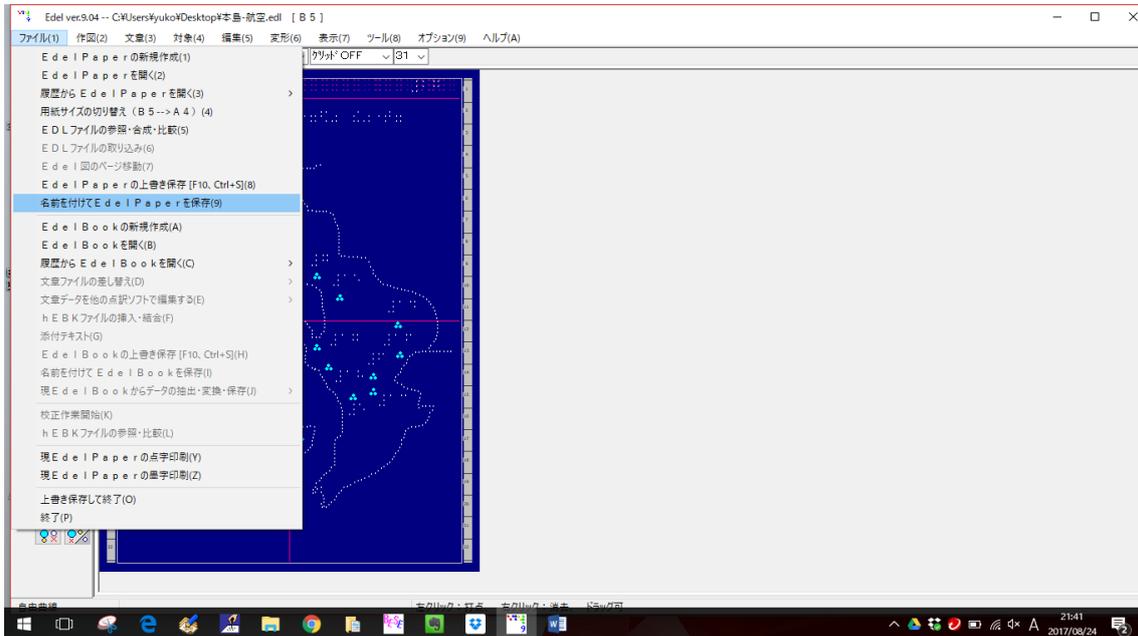
- ① - 1 元図を左右対称にしてから裏点を描く方法
- ① - 2 元図に小点でペイントしてから左右対称にして裏・表、それぞれの不要な点を消す方法（裏・表、ファイル名を変えることを忘れないように！）。ただし、裏点のペイントは中点以上でないとは表面から読み取ることが困難です。移動後、中点に変更します。

以下は①-1の手順です。

1. EdelPaperを開きます。

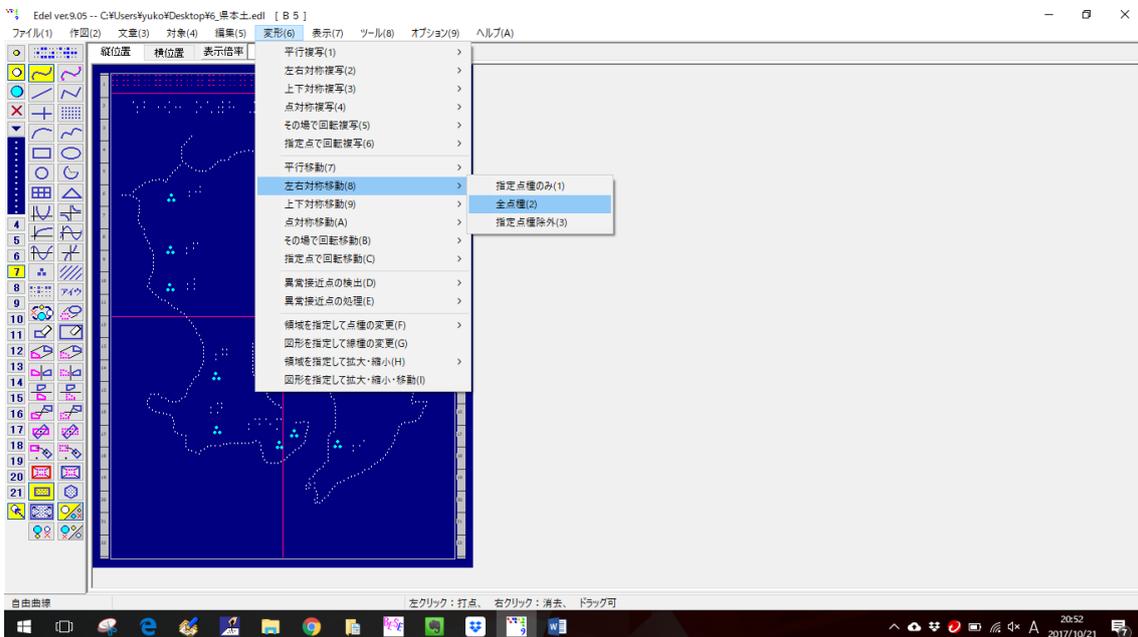


※ファイル名を変えておきたいので「ファイル」→「名前をつけて EdelPaper を保存」を選択し、「〇〇裏面」のようなファイル名をつけて保存します。

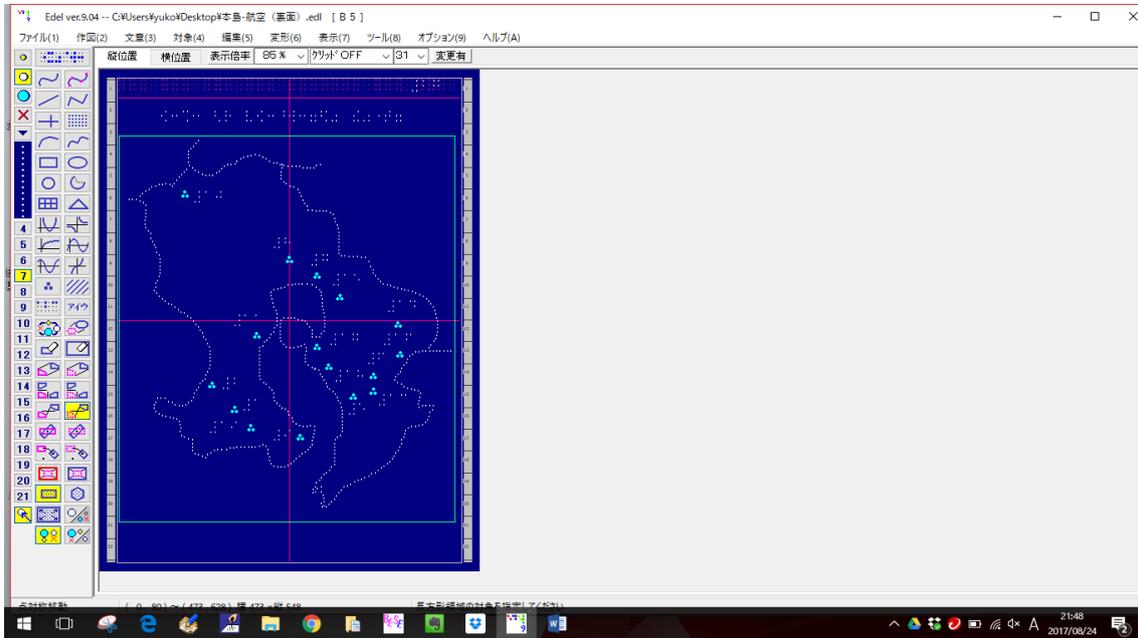


「変形」→「左右対称移動」→「全点種」を選択します。

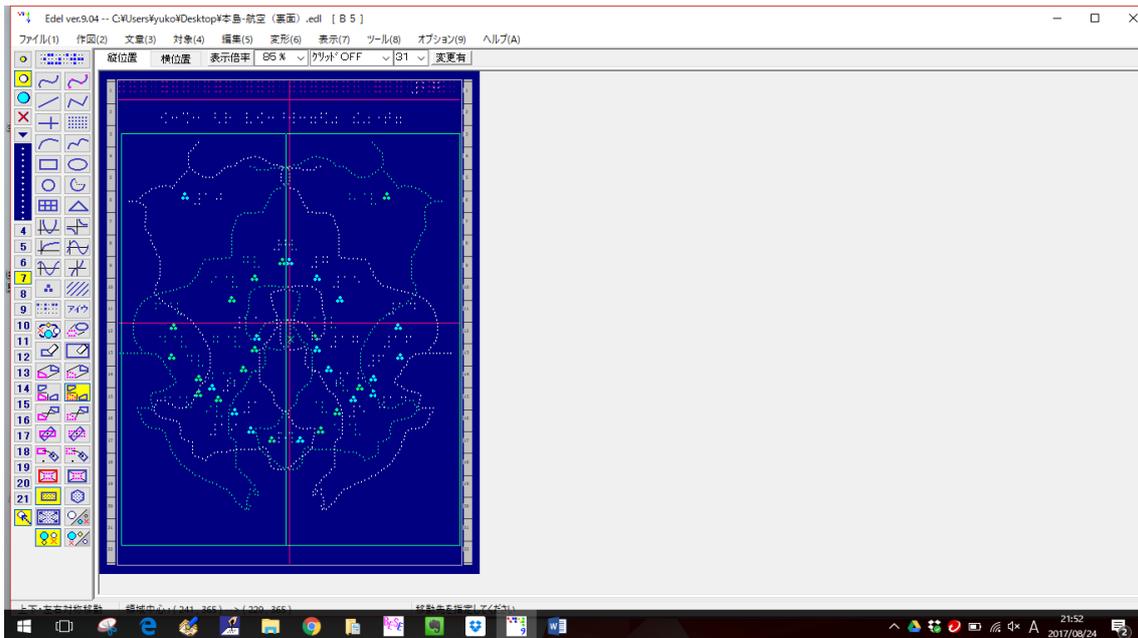
※「左右対称移動」「上下対称移動」は エーデル Ver.9.05 からの機能です。Ver.9.05 以前は「上下・左右対称移動」と一つの機能になっていました。



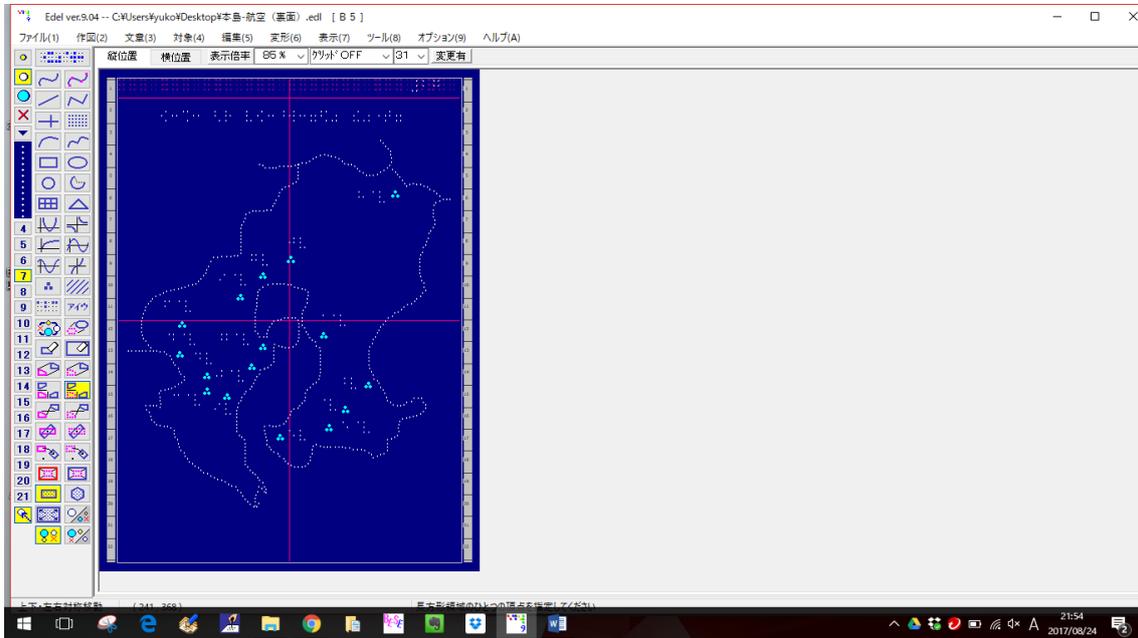
該当の図の範囲をマークします。



左右対称に移動させたいので、縦の青いバーが図の赤い中心線に重なるところまで移動させます。

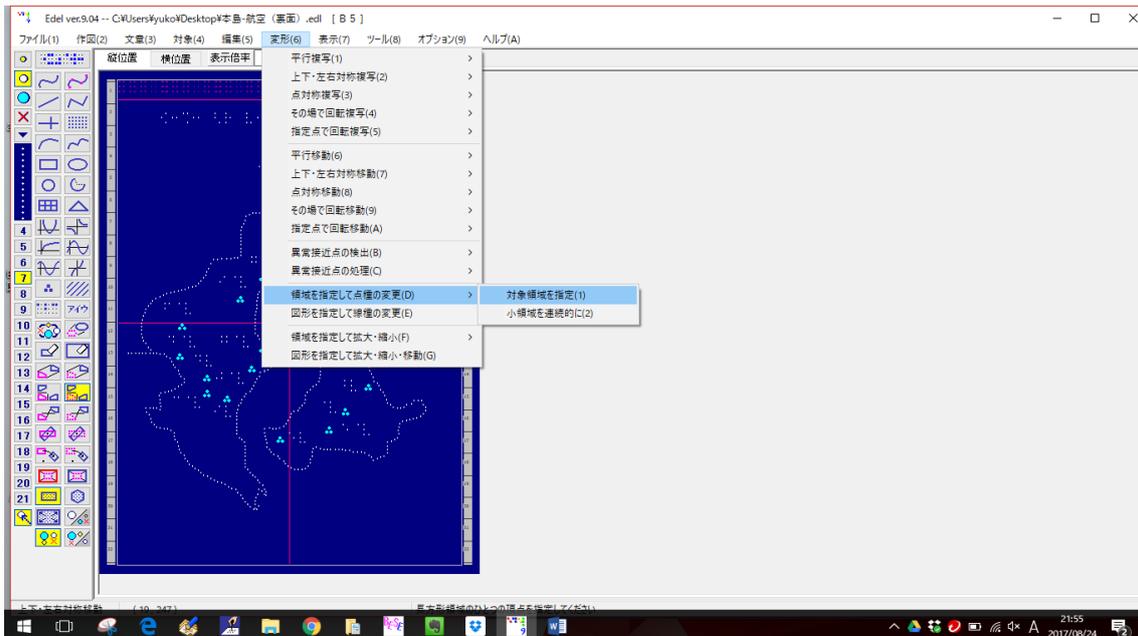


左右対称に移動した状態です。

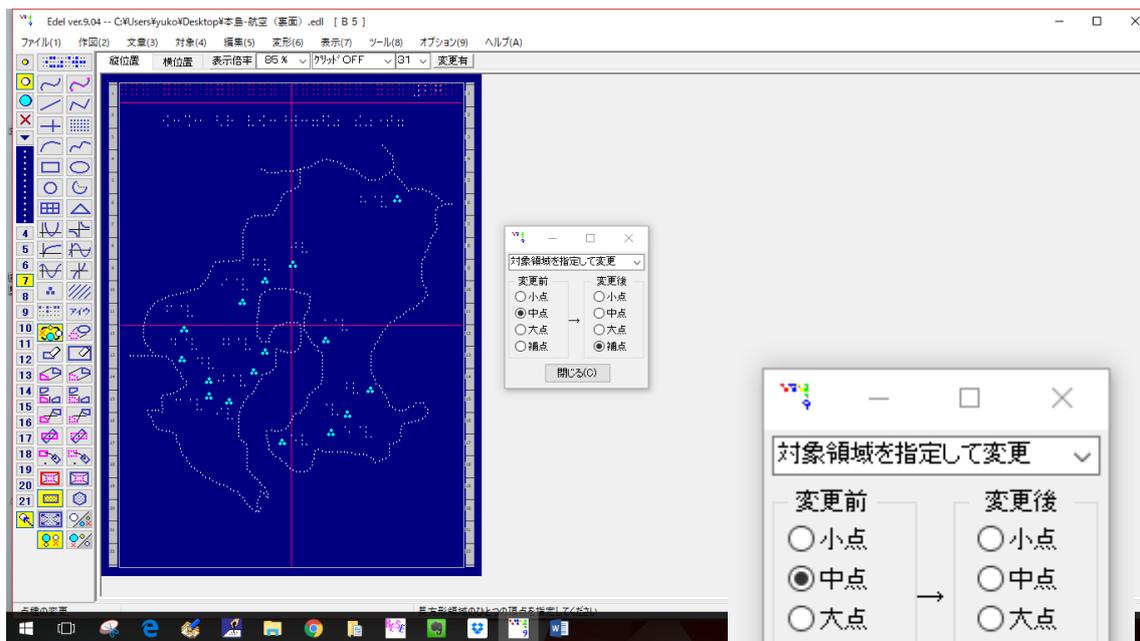


全点種を「補点」にします。

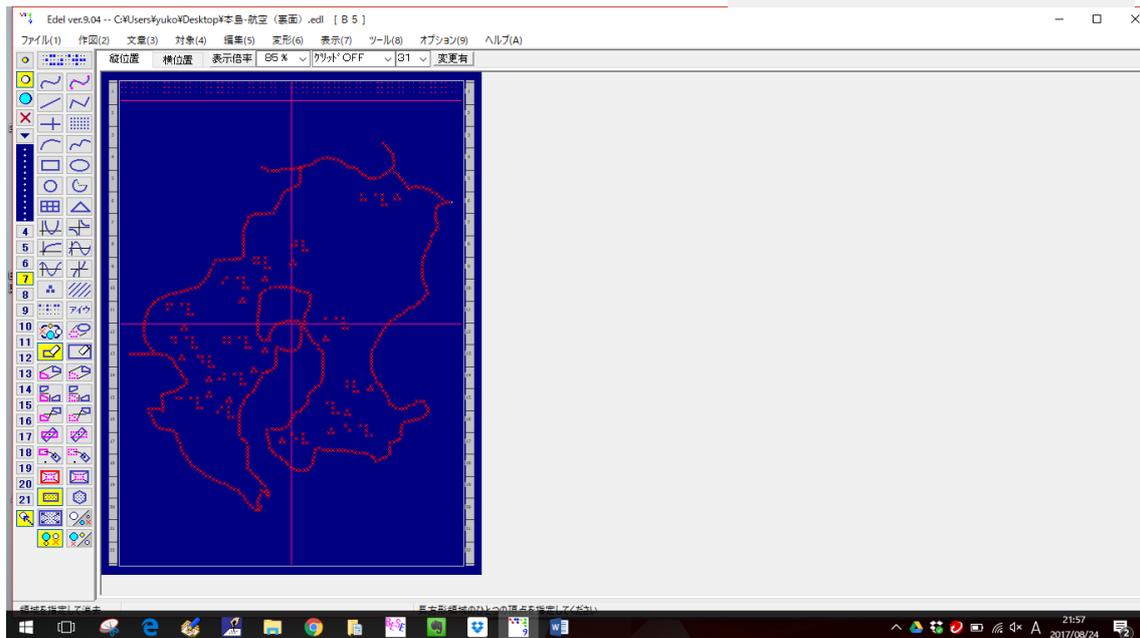
「変形」 → 「領域を指定して点種の変更」 → 「対象領域を指定」と選択します



図に含まれているすべての点を補点にします。
小点・中点・大点、それぞれ変更します。
裏点を打つのに必要な点だけでいいです。



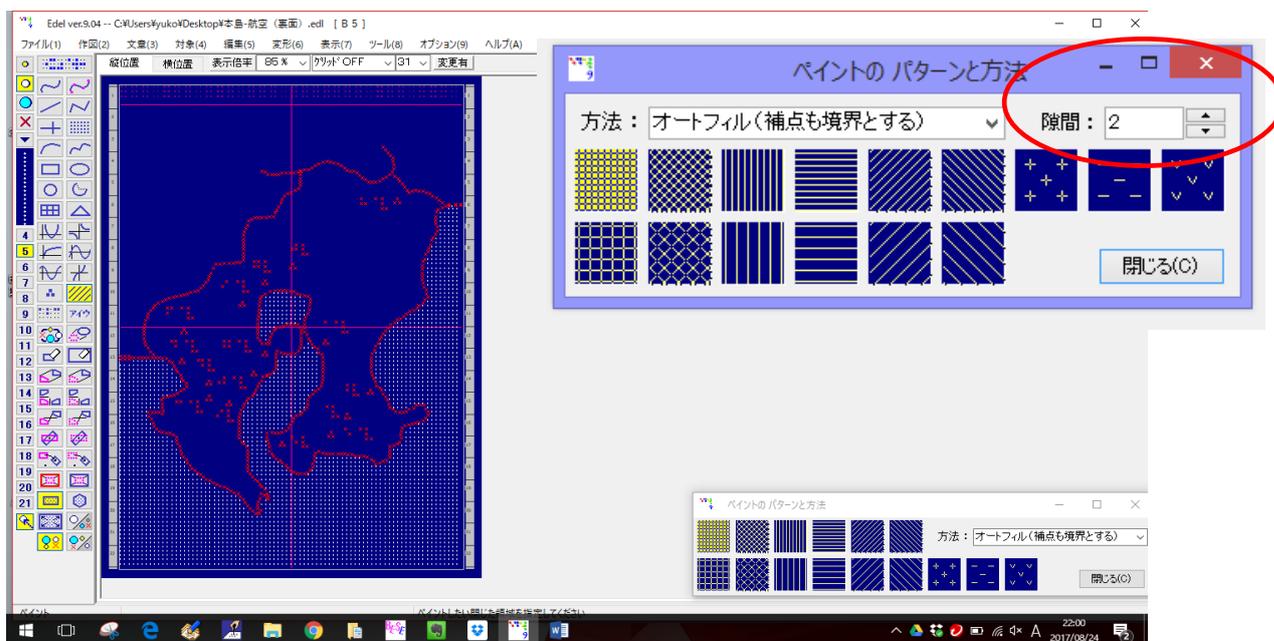
裏点作成に必要な全点種を補点に変更し、
不要な点は消してしまいます。



この図では、「海」の部分を表点にしたいので、ペイント機能が見つかるように、地図の周囲に補てんで枠を描きます。

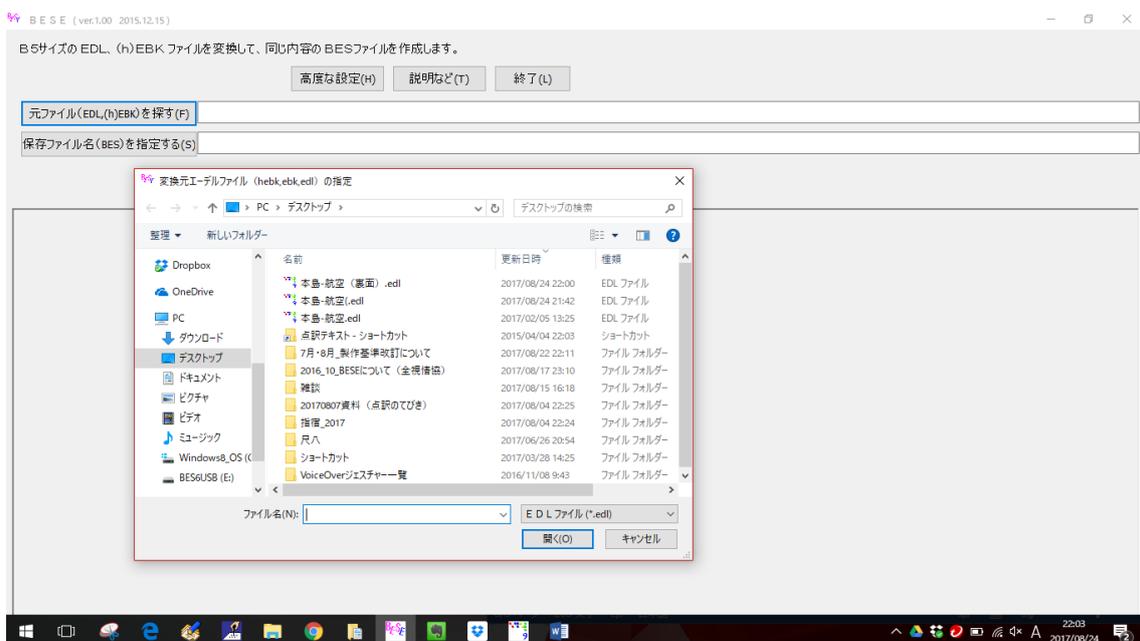
裏点ペイントの「隙間」は「2」。

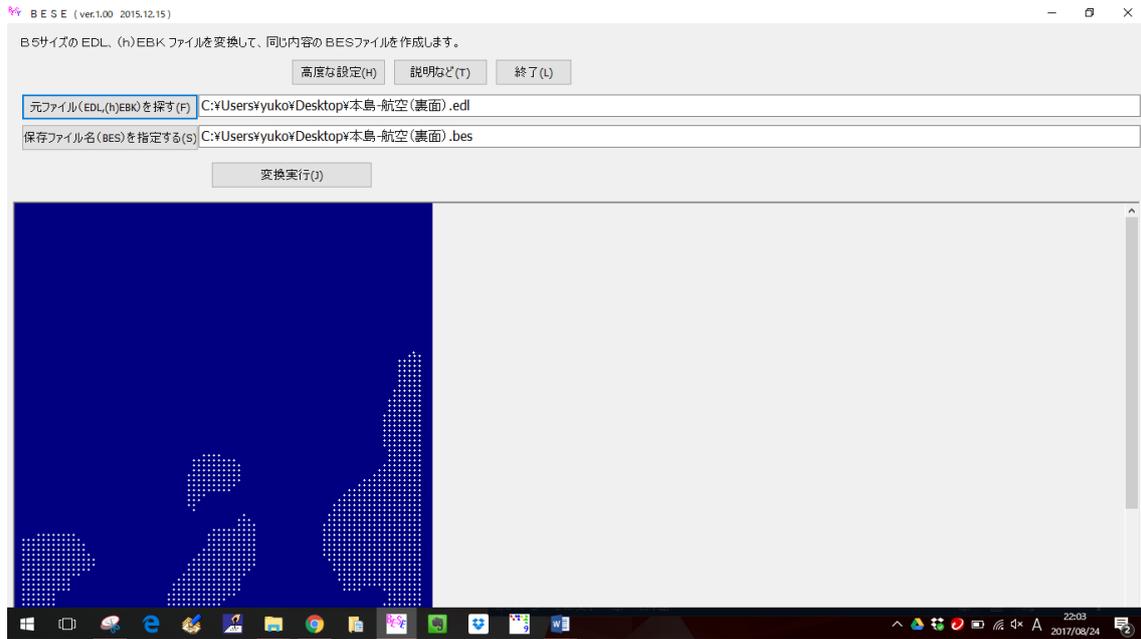
※初期値は「6」です。表面からペイントするときは、輪郭線を際立たせるために「6」くらいの「隙間」があった方がいいようです。



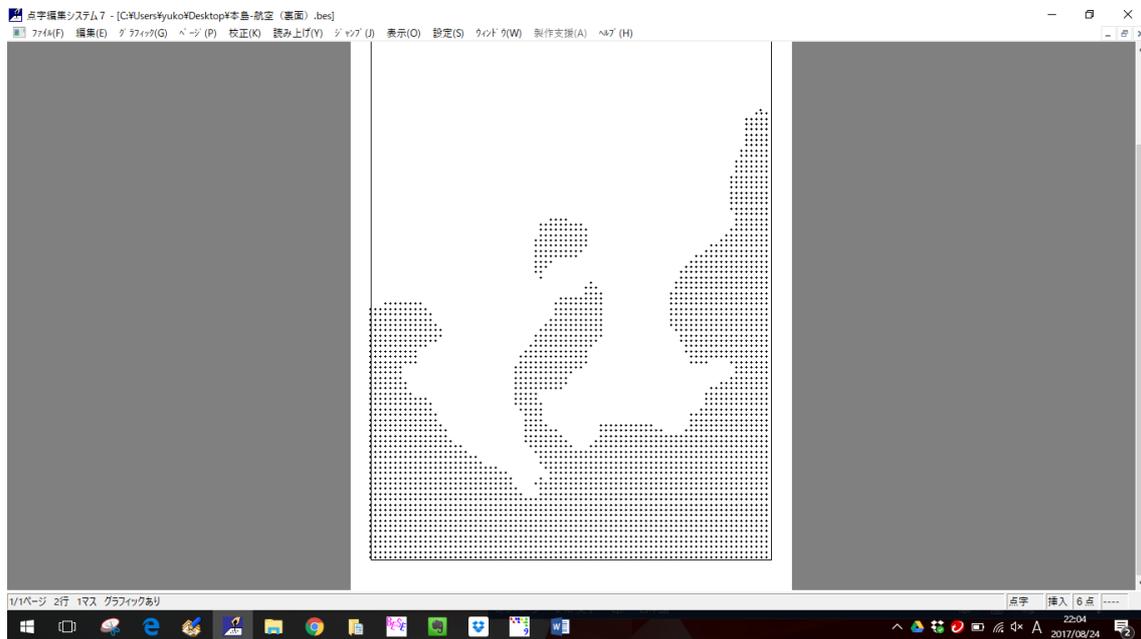
※補点は印字されないなので、そのまま残しておいても大丈夫

BESE で BES に変換します



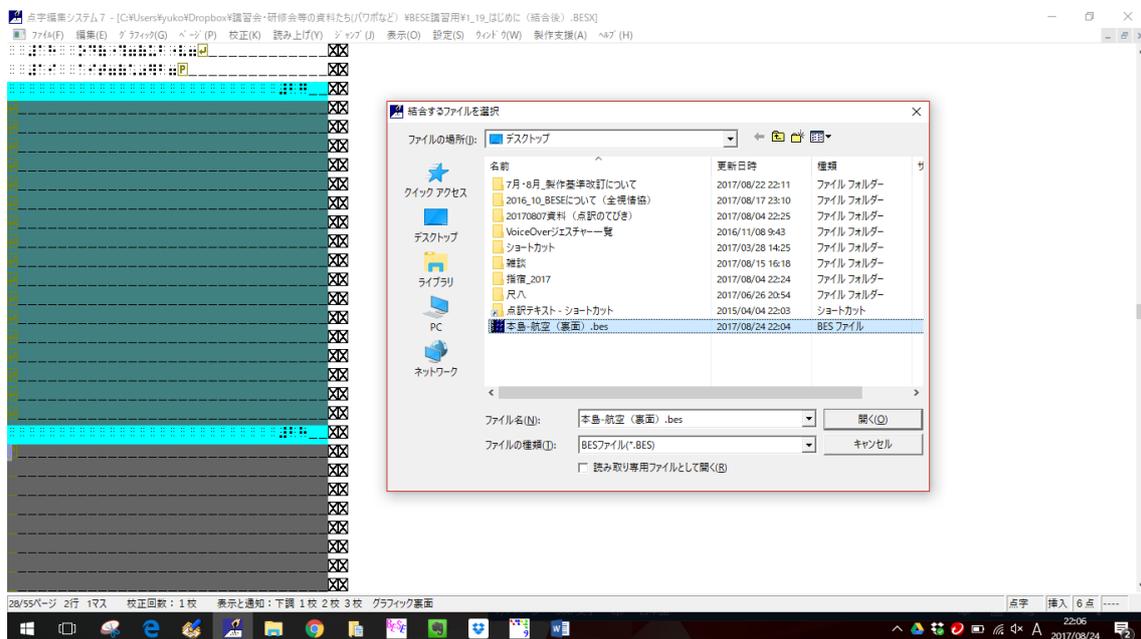
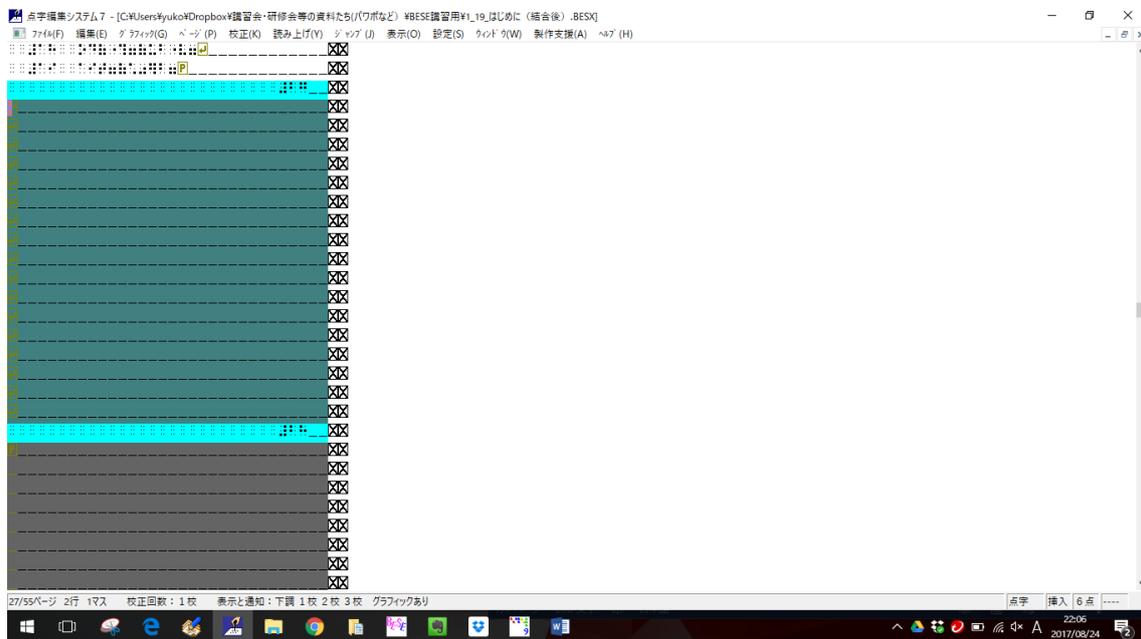


変換するとこういう BES データです



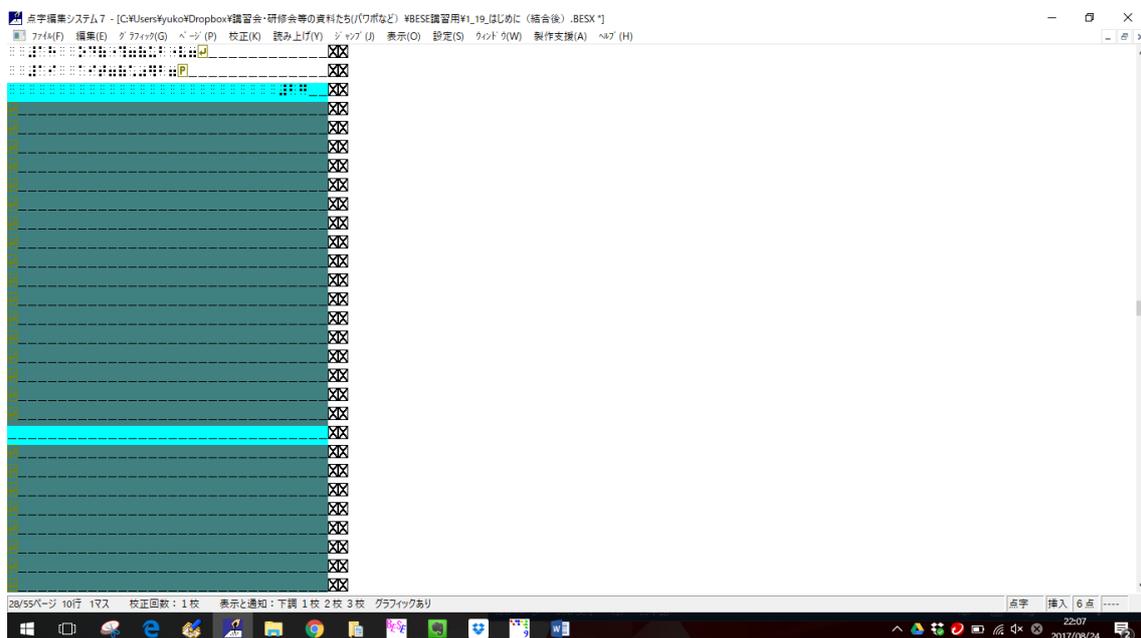
これを先に文書結合した裏面に文書結合で挿入します。

27 ページの裏面に裏点がくるようにします。

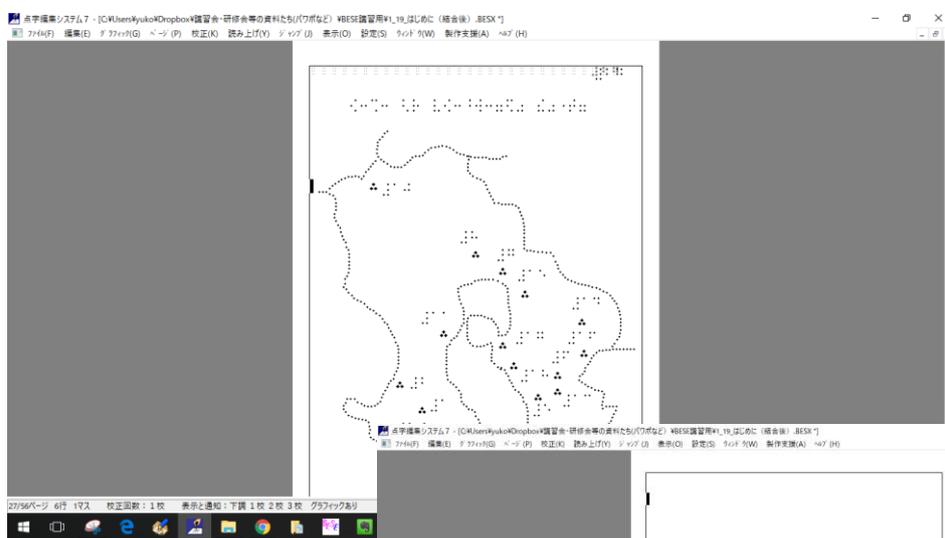


裏面のグラフィックなので、27 ページ、28 ページどちらも青緑色になっています。

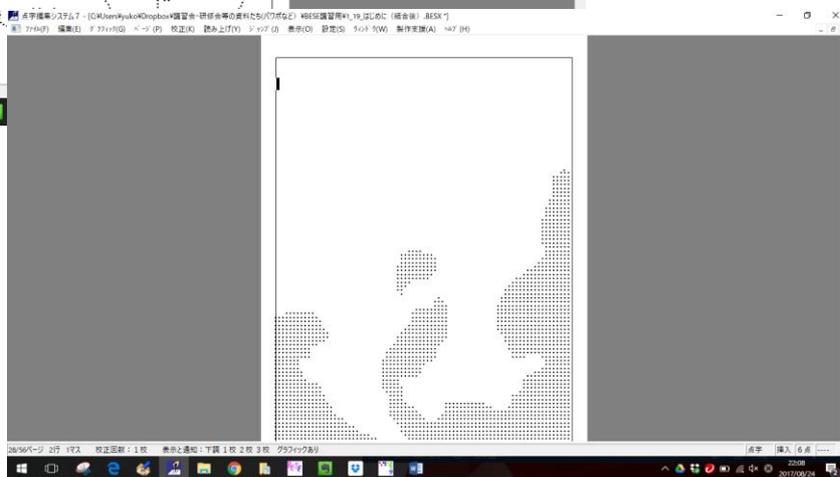
裏点まで文書結合した点字編集システムの画面です。



27 ページは

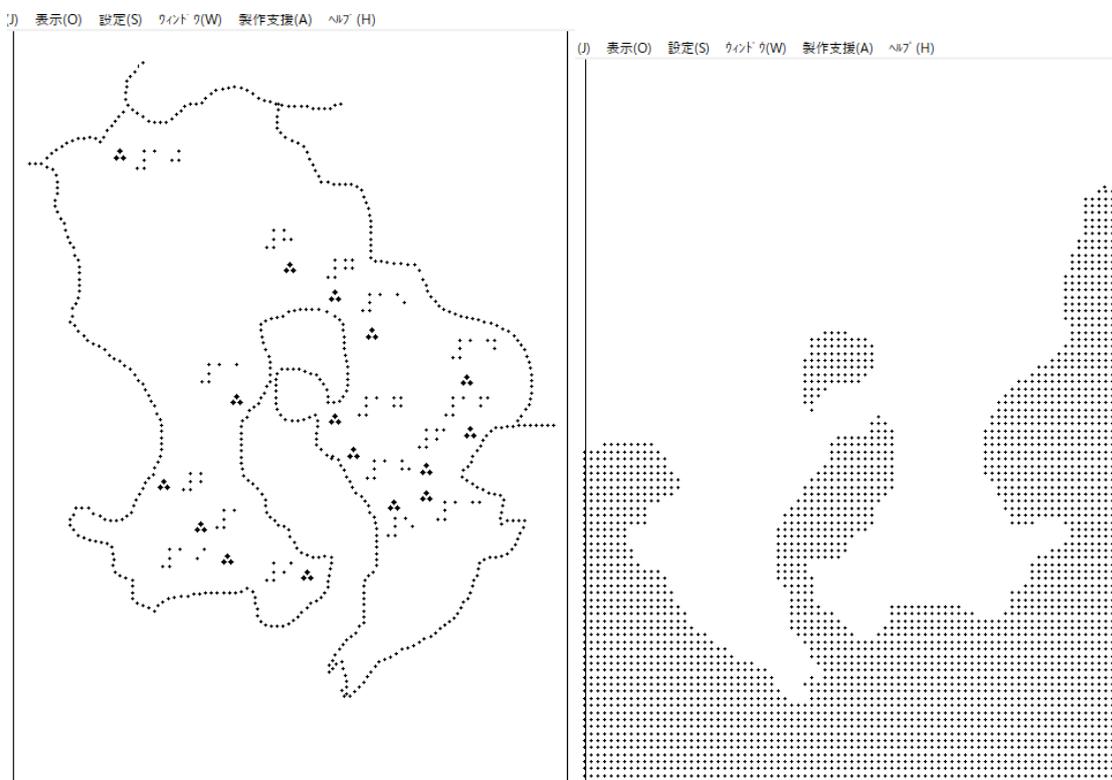


28 ページは



となります。

これで点字印刷します



※画面上はあっている裏点がずれてしまった場合は、プリンターの用紙設定位置がずれている可能性があります。

5mm ずれている場合は、2.5mm 点字用紙のセット位置をずらしてみてください。

一度、ぴったりあったら、その後はその位置で印字することができます。